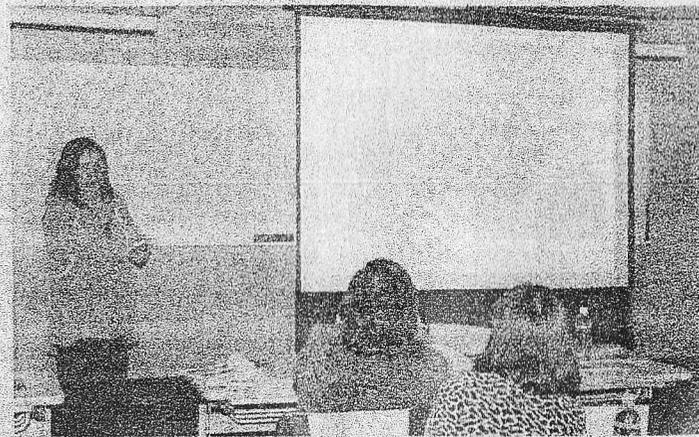


経験や課題共有し、災害へ備え

比台風復興支援会議開く

現地からの報告も

昨年十一月に観測史上最大級の台風に襲われたフィリピンの復興を支援してきた団体等が一堂に集い、支援活動の経験や課題を報告するとともに、来る南海トラフ地震に対する備えについて話し合う「フィリピン台風30号復興支援会議」が



現地の状況報告も行われた

二十六日、福山市内で開かれた。

福山市医師会（森近茂会長）と国際的な医療支援活動を展開している認定特定非営利活動法人AMDA（福山市、菅波茂代表）の共催。医療関係

者や行政、市民ら約八十人が参加した。

来賓として在大阪フィリピン領事館からマリヤ・テレサ・タギアン総領事も参加。「地方で災害被害を管理する部署を強化すること、多くの国や団体が支援に入った際に調整を上手にすること、支援が行き渡らない地域がないような計画が必要だ」など経験を踏まえ、て挨拶した。

また、被災地からの報告のために参加した比レ

キット・クラリダット

タグラ会長は台風被害直後の画像などを紹介しながら、「市民は元の生活に戻りつつある」と現状を報告。その上で「相互扶助の精神の下、持続可能な平和を目指して、もう一度元気になるよう頑張っていきたい」と話した。その他、福山市医師会から派遣された医師や看護師、親善友好都市タクロバンの復興に尽力している市民団体、タクロバンを訪れた高校生代表らが活動報告を行った。

支援の募金アリガトウ

タクロバンから光小へ感謝の声届く

昨年十一月にフィリピンを襲った観測史上最大級の台風で大きな被害が出た福山市の親善友好都市タクロバンの復興を支援する募金を送った市立光小学校（福山市草戸町）に二十五日、現地の子供たちから感謝のメッセージなどを記録したDVDが届けられた。

DVDは同市の教育機関アンジェリカム・ライニングセンターに通う明平将太郎君（13）が届けた。福山市在住の両親宅に一時帰省することからDVDを託された。同小は昨年十一月、タクロ



タクロバンからの感謝の声を伝える明平君